

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称：株式会社 マスネットワーク	所在地：長野県松本市中条 1-14
評価実施期間：平成 29 年 5 月 1 日～平成 29 年 8 月 10 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060872 050231	

### 2 福祉サービス事業者情報（平成 29 年 6 月現在）

事業所名：障害者福祉施設 空風 (施設名)	種別：就労継続支援 B 型事業所
代表者氏名： 理事長 寺田 裕明 (管理者氏名) 所 長 深澤 孝信	定員（利用人数）： 40 名（46 名）
設置主体：社会福祉法人 長野市社会事業協会 経営主体： 同 上	開設（指定）年月日： 昭和・平成 24 年 7 月 1 日
所在地：〒381-2221 長野市川中島町御厨 1 3 9 2 番地 10	
電話番号：026-283-4477	FAX 番号：026-283-4466
ホームページアドレス <a href="http://nagano-shajikyo.or.jp/sorakaze/index.html">http://nagano-shajikyo.or.jp/sorakaze/index.html</a>	
職員数	常勤職員： 10 名 非常勤職員 7 名
専門職員	(専門職の名称) 名
	栄養士 1 名
施設・設備 の概要	(居室数)
	(設備等) 食堂 1、集会室 1、静養室 1、相談室 1

### 3 理念・基本方針

基本理念 長野市社会事業協会は、利用者の人としての尊厳を大切にし、地域社会でゆとりと潤いのある、その人らしい、いきいきと自立した日常生活が送れるよう、利用者本位のニーズに合ったサービスの提供に努めます。
基本的視点 ・私たちは、利用者の家族の声を大切にし、利用者とは対等な立場で信頼関係を築きます。 ・私たちは、サービスの質の評価を行い、公正で良質かつ適切なサービスを提供するよう努めます。 ・私たちは、地域やその他の関係機関と連携し、より充実したサービスが受けられるよう努めます。 ・私たちは、サービス内容の情報提供を行い、事業運営の透明性の確保に努めます。 ・私たちは、専門性を高めるため、常に研鑽し、資質の向上に努めます。

### 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

前身の入所授産施設から平成 24 年に現在地に移転し通所就労継続支援 B 型事業所として活動しております。
作業種目を①法人内日中活動事業所への昼食弁当の提供 ②従前から 30 年間取り組んでいる製パン事業 ③低農薬で安全な農産物の栽培

の3班体制とし、「食」の分野に特化した自主生産活動を行っています。

また、利用者の大半が入所施設からグループホームへと生活の拠点を移した為、一人ひとりが地域の中で有意義な生活が送れるように法人内担当事業所と協力して支援しております。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）

今回初めての受審

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

### 1 <地域と共にある就労活動>

山間地から、都市部に開所して3年、地域住民が利用しやすい食に特化した3つの作業種目を通して、地域に密着した施設運営が出来ている。

加工班では、パンと菓子類の製造販売を外部から委託や各種イベントで販売を行っている。調理班は、法人内事業所の弁当や、地域の行事・会合での弁当の製造販売を行っている。また、弁当のほか、外部食品加工会社からの受託で食品加工の仕事も請け負っている。自然班では、自主製品として隣接する畑での野菜をつくり、調理班での消費を図るとともに販売を行い、作業に際して地域の農家の人から指導を受け、交流の場になっている。この他、受託作業として、地域から草刈り・畑の耕運作業も行っている。

施設の周辺は、近年新しい道路や競技場などのインフラや公共の建物が増え、住民の増加や人々の出入りが予想される。地域に密着した就労支援を続けることで、より一層の発展と工賃アップが期待できる。

### 2 <利用者の地域生活の推進>

山間部にあった入所施設の閉鎖に伴い、都市部に通所の就労継続 B 型事業を開設し、生活の場として利用者の多くが地域のグループホームで生活することとなった。そのため、施設の立地条件を活かし、送迎支援の利用だけでなく、公共交通機関を利用も側面的に支援し、利用者の社会性の向上に努めている。

利用者個々の希望・障害に応じた就労作業技術の向上から得られる働く喜びと、自立した地域生活を積極的に支援をしている。

利用者が地域の一員として、自立した生活が継続できるよう更なる支援を期待したい。

### 3 <清潔な施設環境>

食に特化した就労施設のため、衛生面には特に配慮が出来ていた。

作業種ごとにトイレが設置され、感染の拡大を防止すると共に、調理部門では、専用の白衣は当然のこと、エアシャワーが設備され、一般的な福祉施設の調理室と比べると遥かに整った衛生管理が出来ている。また、食を扱い販売する事業所としての厳しい健康面でのチェック体制も整い、保健所などの研修の参加や積極的な指導の下に環境を整えている。

地域に信頼される食品作りを目指して、より一層の衛生管理の徹底を期待したい。

◇特に改善する必要があると思う点

### 1 <利用者の可能性を伸ばす PDCA サイクルの確立>

パソコンによる個別支援計画の作成が始まり、アセスメントや個別支援計画の作成過程の効率化が図られた。

しかし、施設開所当初行われていた基本的な領域に添ったアセスメントが出来ておらず、アセスメントでの課題の抽出と検討が出来ていない。その結果、個別支援計画の目標も少なく、利用者の全体像を捉えた計画になっていない。

また、日々の記録も作業工程での問題点がほとんどで、業務記録以外の活動や記録からの記載が

なく、個別支援計画の実施の確認も出来ていない。

当施設の利用者は、当施設での就労活動が人生の最終地点ではなく、一般就労やより一層の自立の可能性も否定できない。利用者の更なる自立と自己選択・自己決定の幅を広げることを念頭にPDCA サイクルの根本的な見直しと改善が必要と思われる。

### 2<事故・ヒヤリハット報告と安全対策>

開所以来、事故・ヒヤリハットの報告が極めて少なく、報告の基準も明確でない。また、報告された事例には、支援上のヒヤリハットと就労作業上のミスとが混在しており、それぞれの問題の抽出に役立つデータとはなっていない。

当施設は、刃物などの機器や施設外での仕事が多い施設のため、一般的な福祉施設より重大な事故に繋がる危険性が高い施設である。より積極的なヒヤリハット事例の収集を行い、施設全体で分析し、情報を共有するが重大事故の防止に繋がるものと思われる。

危機管理全体の見直しと改善が望まれる。

### 3<利用者の権利擁護に対してのより一層の配慮>

施設のマニュアルや記録を見る限り、法人や知障協の研修にも参加し、一定の権利擁護対策は行われている。

しかし、当施設のマニュアルを確認する中では、利用者の細かなプライバシーへの配慮を示した文書はなく、ケース記録においても人権侵害に関する記録も確認できなかった。

一般的に福祉施設において、日常の些細なトラブルの背景には、さまざまな権利侵害が隠れているケースが少なくない。利用者・職員双方が障がい者や市民一人ひとりのもつ権利について学習し、意識する機会を定期的に持ち、人権意識を高めることを期待したい。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目'（別添2）

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する施設のコメント

平成29年8月28日記載

今回初めて第三者評価を受審しました。入所施設から日中活動事業所へ移行し、事業運営・利用者の皆様の支援共に手探りの状況で活動する中、ありのままの姿を評価していただき良い部分・改善を要する部分をご指摘いただきました。

当事業所は、利用者の皆様が自主的に仕事を選び取り組めるような環境を提供し、職員が全面的にバックアップできる体制を取れるよう努めて参りました。

評価をいただいた良い点はさらに伸ばすと共に、今回ご指摘をいただいた個別支援計画・ヒヤリハット等良質なサービス提供に当たって最も基本になるべき部分は、全職員で周知し支援の質を高めるべく研鑽を積んで参りたいと思います。今回の受審に当たり調査員の方々には様々な角度からご指導・ご助言を賜り感謝しております。今後も地域の中で、良質で特色あるサービス提供を目指して努力して参りたいと思います。